

化学物質の事業所内漏出最多はスチレン



化学物質排出移動量届出制度 (PRTR 制度) が本格的に施行されて3年が経過しました。同制度に基づく集計データの活用も広がりを見せつつあり、対象事業所の敷地内土壌への排出データから土壌汚染調査・対策につながる端緒となる一面もあります。

事業所内土壌への届出排出量上位 10 物質の3ヵ年実績は下表のとおりです。

	01年度	02年度	03年度
1位	エチレングリコール(0.2千トン)	エチレングリコール(0.25千トン)	エチレングリコール(0.24千トン)
2位	スチレン(0.1千トン)	スチレン(42トン)	スチレン(5.3トン)
3位	フッ化水素及びその水溶性塩(0.1千トン)	ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(5.1トン)	バリウム及びその水溶性化合物(5.0トン)
4位	バリウム及びその水溶性化合物(0.0千トン)	バリウム及びその水溶性化合物(4.6トン)	トルエン(0.40トン)
5位	モリブデン及びその化合物(0.0千トン)	メタクリル酸メチル(0.71トン)	キシレン(0.33トン)
6位	キシレン(0.0千トン)	鉛及びその化合物(0.64トン)	クロム及び三価クロム化合物(0.15トン)
7位	ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(0.0千トン)	マンガン及びその化合物(0.36トン)	ジウロン(0.14トン)
8位	五酸化バナジウム(0.0千トン)	キシレン(0.13トン)	フタル酸ビス(2エチルヘキシル)(89キログラム)
9位	トルエン(0.0千トン)	トルエン(0.10トン)	ビスフェノール A 型エポキシ樹脂(72キログラム)
10位	ジウロン(0.0千トン)	フタル酸ビス(2エチルヘキシル)(65キログラム)	エチルベンゼン(71キログラム)

これをみると、3ヵ年ともエチレングリコールが最多となっています。

土壌へ排出した業種では3ヵ年とも燃料小売業が最も多く、他、化学工業、輸送機械器具製造業、金属鉱業が上位にあがっています。

エチレングリコール、燃料小売業が最も多いのは、燃料小売業では凍結防止材としてエチレングリコールを用いているため、一方このエチレングリコールを除いた化学物質は、配管や容器などからの漏洩等により事業所内の土壌へ漏出したものと環境省は想定しています。2番目に多いスチレンが土壌漏出等では最も多い物質といえそうです。化学物質の規制が強まる中、土壌への排出がどう変わっていくのか、今後、データの推移が注目されています。

当社ではこの3ヵ年の届出排出量上位 10 物質すべての測定に対応可能です。ぜひご相談下さい。

資料:2005年7月25日付 循環経済新聞

機器分析箇所 有賀久枝

事業内容

- 1 環境管理に伴う調査・測定・化学分析
- 2 ダイオキシン類に係る濃度計量証明
- 3 ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定
- 4 水道法第 20 条に基づく水質検査
- 5 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査
- 6 労働衛生管理に伴う作業環境測定
- 7 トータルサニテーション管理
- 8 委託試験・研究・開発

